

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
新たな総合計画の策定基本方針（案）							
					<ul style="list-style-type: none"> ・策定基本方針（案）に反映しました。 ・新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。 ・既に取り組んでいます。 ・今後取り組む予定です。 		<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇局 ・総合政策課
1	米田委員	2	策定基本方針2ウ(ア)	「県民一人ひとりが社会の支え手として活躍できる環境づくりに注力する必要がある」の記載について、一人ひとりが社会の機能として求められているという視点よりは、一人ひとりが持っている権利として保障されるものはきちんと保証していくべきという視点を重視したい。	策定基本方針（案）に反映しました。	こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を発揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出ししていく、質的に豊かな社会を形成する必要がある。	総合政策課
2	小池委員	2	策定基本方針2ウ(ア)	一人ひとりが幸せになることに対して、政策的に投資していくことが、実は社会全体の持続可能性を可能にしているという理解を県民全体で行えるようにすることが大切である。政策は、一人ひとりがとても大切な存在であって、その方たちが活躍できることによって、例えば少子化が改善されたり働き方の幅が広がるというような、社会の健全性を持続的に保証するものに繋がって、循環性のあるものだということを前提に政策は作られていくという表現の方が、さらに県民の皆様にご理解いただけるのではないかと。	策定基本方針（案）に反映しました。	こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を発揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出ししていく、質的に豊かな社会を形成する必要がある。	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
3	小池委員	3	策定基本方針 3	<p>県民参加（パブリック・コメント）について、今回の構想の中でとても重要なのが、子どもをどう育てていくのか、もしくは希望出産数をどう上げていくのか、子どもを産みたいと思っても産めないこの社会をどう回避していくのかというのがとても大切である。産みたいと思っても経済的な問題であったり労働の制約から産めない社会になっていることを考えると、回避するためには単に子育て支援ということだけではなく、産みにくい状況を回避することがとても大切である。意見を聴取する中では特に、女性であったり若い世代から意見を聴取することがとても大切である。</p>	<p>今後取り組む予定です。</p>		総合政策課
4	矢島委員	一	策定基本方針	<p>社会が大きく変わっていくときに、個人の属性だとか世帯の特徴だとか、そういったものについて、実は大きく変わっているのに、これまでの見方を踏襲して、問題を見誤っていないかということを今一度点検することが必要ではないか。社会においても、性別だけではなく、年齢、或いは世代の特性などでアンコンシャス・バイアスに基づいて、その課題や役割であるとか、そういうものを決めつけてないだろうかという視点から計画を見直すのも一つである。世帯の構成、年齢の構成が大きく変わっていく中で、問題ばかりが大きくなるのではなく、それぞれが持つ力や発揮できる能力も変わってきているかもしれない。協力の仕方を変えれば、できることも変わるかもしれない。そうした視点で可能性を見つけていくことが大切である。</p>	<p>策定基本方針（案）に反映しました。</p>	<p>こうしたことから、年齢、性別、国籍、障がいなどにかかわらず、誰もが多様な個性を発揮して、不安を抱えずに暮らし、活躍できる環境づくりに注力することで、県民一人ひとりの持つ力が新たな可能性を生み出していく、質的に豊かな社会を形成する必要がある。</p>	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
5	伊達委員	一	策定基本方針	<p>総合計画の策定基本方針というところで、そのタイトルとして見たときに、この方針がというところを考えるべきで、まずこのフレームワークがいいのか。ネガティブマネジメントではないのか、不確定だから予想困難な時代だから、色々な準備をしていこうとすると非常にコストが掛かる。例えば、柔軟性を確保すればいいのではないか。問題は、別の見方をすると問題でもあり、それは機会でもある。どう描いていくのか、描いた未来に対して私たちはどのように進んでいくのか、子供たちに問題があると言うと、当然ネガティブになる。こんな明るい未来があり、そこに向かって行こうと言ったら、みんな楽しくそっちに向かう。2024年から2027年までの4年間を計画期間にしているが、2024年だけでも長期的に考えたときの4年間、もしくは短期的に考えたときの4年間と言ったことであれば、全く見方が変わってくる。側の検討をするべきで、どういうフレームワークでこれを構成するのかに対して具体的にもう少しこういう見方があるのではないかとという側の話。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課
6	和田委員	一	策定基本方針	<p>2040年を考えていくとき、その枠組みとして新たなデザインをいかにして、そこからバックキャストイングをして、どういう体制としていくかを中期、短期で見えていく必要がある。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課
7	和田委員	一	策定基本方針	<p>部会の中でチームを分けてでも、例えば2040年の理想の姿を描く、グルーピングで何か議論をするようなことも必要ではないか。</p>	<p>新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。</p>		総合政策課